

令和5年度 第3回湖南省生涯学習審議会 会議録

日時 令和6年(2024年)3月7日(金)

午後7時～午後8時45分

場所 西庁舎 3階大会議室

出席者 6人

委任者 3人

欠席者 3人

1 開会

(1) 会議の成立

委員の過半数出席のため成立

(2) あいさつ

会長：(省略)

教育部部長：(省略)

2 役員選出について

湖南省文化芸術振興会議委員 1名

3 報告事項について

会長：

続いて報告事項に移りたいと思います。1月20日に湖南省人権教育研究大会が行われました。日枝中学校区の取り組みについて学校からの報告と、日枝中学校区の子育てのグループの方が、活動の報告をされていました。

講演は講師の先生が、自身の経験を通して感じられたことを多文化共生や部落差別問題についてわかりやすく話してくださいました。前のステージに私たちが読めない言語で、「これどう書いていますか」ということで「こんな看板があったら、あるいは薬に書いてあったら、それ読めますか、その困り感が、実は日本で暮らしているあるいは、よその地域で暮らしている外国籍の人たちが感じていることなんですよ」ということを体験させてくださる講演でした。自分自身も、日本で暮らして日本語で聞いている中ではあまり感じなかったことを、その立場になって考えなければならないと考えさせられる講演だったと思います。

後日、集約する会議にも参加させていただきましたが、概ね参加された方は「非常によかった」というご意見が多かったと事務局から報告がありました。

では次に、1月25日にありました「家庭教育実践交流会」、さらに、2月7日にありました「県社会教育委員連絡協議会第3回理事会」、続けて、2月13日の「地域とともに子どもを育てる湖南省教育に係る合同研修会」について、参加された副会長から報告をお願いいたします。

副会長：

①家庭教育支援実践交流会 1月25日 近江八幡の男女共同参画センター

国では、子どもを真ん中に置いた法整備をしまして、家庭教育支援事業というのはそういうものだそうです。地域・学校の中で、大人から見て「困った子」「困らせるようなことをする子」っていますが、それは、子どもの身になって考えると、「困っている子」「困難を背負わされている子」なんだと言われると、なるほどと感じました。そういう困っていることに対してどうアプローチしていくかということ、何らかのシグナルを子どもは出しているから、まずキャッチして、誰がキャッチするかということ、もちろん学校の中では先生かもしれないし、家庭の中だったら、保護者の方たち、地域の人たち、その地域の人たちが、もしかしたらその感情を受けとめて、クッションになるのではないかと。つまり直接的な子どもとの関係じゃなくて、斜めの関係でいることで、親へのアプローチとか、先生へのアプローチとか、そういうことをその地域の人ができるのではないかとというのが、家庭教育支援の支援員さんという存在だということを理解しました。ただ、このとき発表があった、2市の家庭教育支援チームは、かなり仕組みとしても組織としても、すごくいい例だったのだろうと思うのですが、そのあとの情報交換でたまたま湖南省のある小学校の家庭教育支援員さんが同じグループになりまして、「ああいう例と全然違う」と、「自分は家庭教育支援しているけれども、学校の子どもの困っている、背負わされている子のケース事例の会議には、呼んでもらえない。でも自分が一番直接毎日、学校の登校の様子見たり、親の話もしたりしているのにもかかわらず、そういう場所に呼んでもらったことがない」という意見を聞いて、少し驚きました。このようにそれぞれ地域、学校によって、家庭教育支援員さんの立場がちゃんと機能していないこともあるということも、情報交換で知りました。

②滋賀県社会教育委員連絡協議会理事会 2月7日 滋賀県庁合同庁舎

2年間理事をさせていただいて、湖南省の代表で行かせていただきました。来年度の事業で決まっていることが2つあります。

- ・令和6年度社会教育委員会研修会 8月2日 県庁
- ・近畿地区社会教育研究大会 9月6日 京都市

それから県が独自で作りました社会教育委員の活動ハンドブックですが、2年たちまして、改定が行われて7月にまた新しく配布されるそうです。私は長く委員をしていますがわからないことも多く、ハンドブックにはわかりやすく書いてありますので、見直しています。また見直していただけたらと思います。

③地域とともに子どもを育てる湖南省教育に係る合同研修会

2月13日 サンヒルズ甲西

地域で、活動されているボランティアの方や、学校教育、地域学校協働活動推進委員の方、コーディネーターの方に感謝状が贈られました。

この会の研修では、岩根小学校が湖南省で初めてコミュニティスクールを立ち上げられまして、校長先生から始まりと歴史、そして現状のお話を聞かせていただきました。なんと岩根小学校はコミュニティスクールが始まって、17年たっているそうです。そして、湖南省は、全部の小中学校でコミュニティスクールが、立ち上がっているということで、これはなかなか県の中でもないそうです。全国でも、かなりすごいことらしいです。そして岩根小学校の話から、コミュニティスクールで大切なことは、まずそれぞれの学校で目指す子がぶれないということです。そのために、学校へ地域がどんなことができるかを話し合い実践していく。学校も地域も「ええ恰好しない」で自分たちのいろんなことをさらけ出して、それが子どもの幸せにどう繋がるか、どういう子どもを育てていくことに繋がるかということを腹を割って出し合うということが大事だなということをお話聞いていて思いました。そして岩根小学校ならではの、17年間続いているので、その間に社会の変化でどんどん環境も変わってきている。それを柔軟に受け入れて、毎年毎年それをどうやっていくかということを話し合われているということでした。そのあとに、岩根小学校に在籍されていたこともある県教育委員会事務局生涯学習課の方がお話してくださいました。この中で2つほど心に残ったことは、乳幼児のころから、地域と触れ合うことが大切だと。そしてもう1つは、地域活動に子どもたちが入ることは、その子どもが大人になる機会を持つこと、地域の中に入っているいろいろな活動をすることが、「地域の役に立っているな」「人に求められているな」ということを小学校、中学校の間から感じていると人に求められる大人になっていこうという気持ちに子どもたちが自然になるのではないかということでした。岩根小学校では毎年ホタルまつりをされるそうです。それは地域も学校も一緒になってのホタルまつりで、そこに小学生の子どもたちが地域の人達と育てたホタルの光を見ながらみんなで楽しむという中で育っていくものがあるということを感じました。

5 令和5年度湖南省の社会教育について 事務局：(省略)

4 意見交換

地域への愛着と誇りを育てる社会教育について まとめ

会長：

では、続けまして次第の4番意見交換の方に移ります。「地域への愛着と誇りを育てる社会教育、まとめについて」になります。近畿地区社会教育研究大会滋賀大会の研究

主題は、「地域の愛着と誇りを育てる社会教育」でした。今期の生涯学習審議会では、この研究主題について話し合いを重ねて参りました。

今日は、地域への愛着と誇りを育てる社会教育のまとめを全体で話し合います。まとめのテーマについては、「地域における社会教育の目指すもの」、2つ目が「社会教育を基盤とした人づくり、繋がりづくり、地域づくりに向けた具体的な方策」、そして3つ目は「その他」ということになります。思いつくままに結構ですので、せっかくの機会ですので、皆さん一人ずつ、ここはというところから話していただけたらいいかなと思います。

○意見発表

- ・地域の夏祭りで見られるような、昔からの住民と新しい住民、外国にルーツのある住民が湖南市の縮図としてあると思う。

- ・人たちの交流をどうせやるなら面白いことをやろうということが一つのテーマになった。裏には高尚なテーマも必要だが、面白がってやったことが良かった。キッチンカーを呼んだりステージ発表をしたりすると、いろいろな人が子ども連れで来る。大人は大人で集まって長椅子に座って食べたり楽しんだりしている。それを見ている役員も地域の住民もやりがいを感じている笑顔。皆がとにかく楽しんでいる。イベントは一発花火とよく言われるが、やることに意義がありそういうものが地域の人たちのつながりづくりに貢献しているということを実感した。

- ・部長のあいさつに、地域の歴史を大切にしながら、愛着と誇りをそれぞれの人たちに育てる手立てというような話があった。吉永は八丈岩があり、三雲城がある。住民のボランティアで土日祝だけ朝10時から夕方4時まで登山口の入口のところに案内係として詰めている。来られた方に話しかけて案内マップを配ったり質問に答えたり送り出したりしている。もちろん県内の方も多いが他府県の方がすごく多い。興味のある人はよく調べて来てくださる。関東や東海からもいらっしゃる。帰りに楽しかったかどうか聞くと、楽しかったとおっしゃる。興味がわけばわくほど情報を得てくださる。つながりもあるようだ。中心になってやっている人がすごく積極的で次々に新しい企画を考えて市にも提供されている。市や県やもっと遠いところとも連携されている。すごいエンジンになる人が居るから幸いだ。周辺にいる者も、だんだん三雲城に誇りを持てる。地域に誇りを持てることにつながっている。まさに歴史を大事にして、私たちはそこに住んでいてある種の誇りを持っている。地域ボランティアは多いように思う。

- ・毎年11月に、のろしりレーをするので、その前には周辺や山道の掃除をしてきれいにし、参加しているボランティアは楽しそうにされている。

- ・まちづくりセンターに行くと、外国人の方だけのバンドをされていて、たくさんの方が来られている。子どもから大人までサークルをしに来られる。同じ地域に住んでいるのに何も知らなくて残念なので、交流があるといいと思う。

・夏祭りなど地域でやっているの、その役員になると仕方なくこなしているような部分もあるが、子どもたちが大きくなって帰ってきたときに参加できる場所があるのはいい。

・文化協会で11月に文化祭を石部文化ホールで開催している。絵画体験などで近所の小学生もたくさん来て描いてもらっていたが、コロナ以降できていなかった。1日だけだがいろいろなサークルの発表がある。大人から子どもまで文化を通じて毎年1回文化祭を市の協力をいただきながらしているが、サークル自体減ってきて今は26団体しかなくなってきている。そこにきて文化ホールがなくなることにも不安。

・文化協会を通じて社会に参加させていただいていると感じる。文化協会の役員とも文化を推進することを続けていきたいと話しているが、若い人はサークルに入らない、高齢の者も夜は車に乗れないとかで、解散になってしまっている。役員で宣伝はしているが、なかなか増えない。鳥取の北栄町と文化の交流をしている。お互い絵を送り合って展示している。文化協会はとてもいいと思うが、なかなか存続が難しくなっている。石部文化ホールも壊されると聞いているので発表する場も置いておいてほしいなとこの頃よく思っている。

・子どもが小さいときは、みんなでおみこしを作ったり交流もあつたりしたが、今は地域の交流もなかなかないと思う。今の役員には運動会や祭りなどコロナも落ち着いてきたのでやっていただきたいと楽しみにしている。

・「地域における社会教育」を具体的に考えると、「湖南省における社会教育施設の充実」という風に言い換えることができるのではないかなと思う。歴史的誇り、ここに住んでいる、愛着を持つという要素を知らしめるところがそういう施設であり、社会教育ではないかと考える。例えば図書館や歴史民俗資料館で湖南省の文化のことをみんなに周知して、他人事ではなく守っていくべきものがたくさんあるということを具体的に知っていただくことが大事ではないか。

・湖南省に住んで江戸時代から続いていた行事が2つなくなった。そのなくなりかたが湖南省の場合は極端で、全部やらなくなる。例えば長浜なら全部やめるのではなく、無理があればちょっとずつ減らしていく、時代に合ったやり方で続けていこうというシステムをやっている。湖南省はなぜ極端に10から0になってしまうのか。そういう意味では知らない文化財がたくさんあるんだとか、伝統的な行事がたくさんあるんだとか、こういうところが大事だよということをやさしく具体的に知ってもらうことが湖南省を愛するということにつながっていくのではないかな。それができれば、一気に行事がなくなるということを防いでいけるのではないかな。社会教育というと、やはりとっつきにくいので、みんなで考えていくことが大事でないかな。

・「温かい暮らしや温かい人間関係を作っていくこと」ととらえている。それが地域の愛着につながるのではないかな。今、他県に11月から居るが、このまちでは見知らぬ人にも挨拶をする習慣がある。挨拶があると、「私、ここにいてもいいんだな」とか、「町の人

に認められている」とか、「この方と繋がれそう」という感覚がする。実際経験することによって、挨拶のパワーをすごく感じた。そういうことの積み重ねが人間関係を作っていく。簡単なことだけど、大事なことだと改めて思う。湖南省にいと人々の中で流されていくのだろうと思うが、それをだれが率先してやっていくこと、賛同する方を増やすことを一つずつ進めていくことが大事。

・「地域における社会教育のめざすもの」は、居場所づくりが皆さんの意識にあがっている。場所だけでなく、そこに人がいることが大切。そこにいる人が人とつながる力を持っているか、相談者の中には知られたくない人もいるので、そこをわかる人にその場にいてほしい。福祉と重なる部分ではあるが、そういう人を育てることが大切。

・社会教育は何年たってもつかみどころがないように思うが、ハンドブックには、「教育のうち学校と家庭を除き、広く社会でされている教育」と書かれている。施設のことは「公民館、図書館、博物館、青少年教育施設といった公的な社会教育施設での教育活動以外にもカルチャーセンターのようなものも入る」と書かれてあり、本当に広範囲。

・「地域における社会教育のめざすもの」と言ったときに家庭と学校も含んですべてとなると子どもを真ん中にして子どものより良い幸せのためを考えると、高齢者も障がいのある人も外国にルーツのある人もつながるという気がする。

・湖南省は「楽しくて力のつく湖南省教育」をかかげている。学校は学力をつけていると思うが、「力のつく」の「力」は生きる力のことだと思う。生きる力ということは地域も大きいのではないか。学校の先生や親は、子どもに対して直接的に責任を持っている立場だけど、地域の人はいいい意味で責任がないので、「大丈夫、大丈夫」と言えるし、小さなことでも地域の人がほめたり認めたりすると子どもは元気になるのだろう。そうやって自尊感情が育っていくと子どもは幸せになり、幸せな子どもはいい地域人、いい大人になっていくと思うと子どもを真ん中にすることは大事。

・乳幼児から地域へという意味では、サロンの居場所は敷居が高い施設ではなく、だれでも気軽に小さい子からお年寄りまで行けて、そこにつなぐ人、つなぎ人がいることが大切。つながりづくりや場所づくりがイメージ的なことですが、そういうまちであれば過ごしやすくいきいきできると思う。

・私は中学校の教員なので、コロナ前は「地域の祭りにぜひ中学生も参加させてください」「お手伝いに来させてください」とよく地域の方からお声がけいただいていた。そのときに地域の方には、「声掛けは地域の方でしてくださいね。学校ができることは、例えば、部活動この子はこの日地域の活動に参加しますからそちらを優先してやってくださいと、できるようにすることです」とお話ししていた。学校でやるべきこと、地域がやるべきこと、行政がやるべきことはいったい何なのかを考えていかないと人任せになってしまっとうまく回っていかなくなるのではないかなと思う。

・甲西中学校区は中学校区でコミュニティスクールになっている。コロナが一番激しかった令和3年度から活動をスタートしているが、ほぼ会議をしているだけでなかなか活動

はできなかったが、今年度から活動をひろげてきている。コミュニティスクールの会長には子どもが意見を言ってそれを大人が形作っていくようなイベントを作ってほしいとお願いしていた。中学生が実行委員長になって考えたことを、まちづくり協議会や青少年育成会議の方が実動部隊となって小学生を対象としたクリスマスパーティーを12月にしてくださった。まさに、子どもを真ん中にして何かをやっていくこと、そうやって地域の方が関わってくださった経験が、きっとこの子たちが大人になったときに恩返しを地域にしていきたいなということにつながっていくと嬉しい。それが誰もが安心して暮らせる居場所づくりであったり人と人との関係性が作っていけるのではないかな。

・湖南省には誇れるものがたくさんあるが、なかなか周知できていない。それは地域の人にもなかなかわかってもらえていないので、知ってもらえる場や、機会をどうやって作っていくかをみんなで考えていかないといけない。新しい物を作るのは大変だと思うので、今あるものをどういう風にみんなが知ってつないでいくかということが、社会教育が目指していく地域づくりにつながっていくことになるかと考えた。

・湖南省教育方針の図は学校教育だけでなく、社会教育でもいえることではないかな。

「仲間づくり 多様性を認め合う」＝社会教育で言えば、まなびあう地域づくり。

「ふるさと意識の醸成 地域の人とのあいさつから」＝地域の人とのかかわりの中からふるさと意識の醸成がされていくのではないかな。

「学びの保障」＝学校の中では授業の湖南省スタイルということだが、外国人や障がいのある方・ない方、高齢者等誰でも学びたいと思ったときに阻害されることなく学べるのが社会教育の中でもいえるのではないかな

生涯学習審議会委員（社会教育委員）としての2年間の感想や審議会で協議してほしいテーマ等について

会長：

生涯学習審議会委員、社会教育委員として2年間皆さんには活動していただきましたけれども2年間の感想と、来期の生涯学習審議会で協議して欲しいテーマなどについて、ありましたらそのことを出していただきたいなというふうに思っています。

今期、主に「地域への愛着と誇りを育てる」、今まさにしゃべっていただいた中身もそれに密接に関連したことをお話いただいたかなあというふうに思っていますけれども、そういう社会教育について意見を交換してきました。

今日は、今期最後の会議となりますので、生涯学習審議会委員、社会教育委員としての2年間の感想や、来期の生涯学習審議会で今回はしなかったけれどもこういうことをぜひ協議して欲しいというテーマと、それぞれ考えておられることとお話しいただけたらと思います。

委員：

学校の先生もいらっしゃるし、まちの文化・芸術を支えてくださる人、いろいろな立場の方が来られているので、いろいろな意見が出てくるので必要な場だと思っています。来年も意見等を聞いていただいて教育や行政をされるのだろうと思います。

いろいろなお話を聞いていて、住民がつながって地域の課題がちょっとずつ良くなっていくような役割の一端を担っているのかなと思います。地域を念頭に話せば、ゆるやかなつながりづくりから始めるべきだと思っています。知らない人同士が近くに住んでいるわけですが、役員のことや町内会費などのしきたりややり方があるので、新しく来られた人は郷に入っては郷に従ってもらいたいしといろいろなことがあり、固いのでなかなか新しい人が入らないということもある。先ほどいろいろな話を聞く中で、自分がここにいていいんだなという感覚やみんなが認めてくれているという雰囲気を作ることは、それぞれがお互いに相手を認め、相手の立場を考えながら自分たちも変わっていくことが大切。そのような地域づくりをしていく中で、見えないところで役割を果たしていくことがいいように思います。

委員：

協議してほしいこと、湖南省を紹介できるいいところ、昨年度文化協会でも湖南省めぐりという研修旅行がありました。摩崖仏や善水寺のお寺さんのお話を聞き、行ったらよいところがわかる。文化ホールのバス停のところにある看板を見るだけではわからないので、下田ナスやお漬物などいいところもいっぱいあります。いろいろ知ったらいいところがあるので紹介していただける機会があるといいと思います。

会議に3回出てもらったらいいと聞いていたがあまり参加できなかった。私はこれで最後となりますが、いい経験をさせていただいたので、これからも地域に関心を持っていきたいです。

委員：

35年間博物館に勤めていました。そのときは専門職としての意識が強くてあまり社会のことまで考えられていませんでした。今委員をしてみると、自分にそう言った部分が足りなかったなと思いました。もっと温かく、他人事でない知識を皆さんに知っていただくことがすごく大事なことでなとこの委員をしてみても痛感しました。いってみれば、世間が広がった、社会が広がったということがこの委員をしてみてもの経験だったと思います。今後は、他人事でないあたたかい学びをいろいろな博物館・図書館・資料館にちょっとでも自分ができればなと思います。

委員：

生涯学習審議会として2年前からスタートしたわけですが、一番私がうれしかったこ

とは、社会教育委員という文字が残ったことです。これによって、社会教育法に裏打ちされた審議会だということがわかるので、これからも社会教育ということを経験していただきたいと思います。社会教育委員という文字が入っていると、県の社会教育の会議に行けますし、他市町社会教育委員さんたちとも分け隔てなくつながれてありがたいのでぜひお願いしたい。

生涯学習審議会ということですが、審議会と協議会は違うので調べてみると、審議会は諮問を受けて審議するということになる。協議会だとわいわいと協議することになる。審議会ということになったので審議することになるのでしょうか。諮問はないのでしょうか。

副会長：

県社会教育連絡協議会理事としてほかの市町と話す機会があったことに感謝しています。社会教育についてわからないことがあれば、できれば研修会にも参加していただけたらいいと思います。

江戸時代から続いてきた行事が2つなくなったということにショックを受けました。江戸時代から続いてきた行事は何だろうと思いました。誇りと愛着を持つというテーマをこの2年間してきました。子どもを真ん中に置いてわかりやすくあたたかいという言葉はとてもすてきだなと思いました。施設でも子ども並みにわかりやすい言葉で説明をしていただくと、より親しみがわくのではないかと思います。施設につなぎ人がいてわかりやすく説明してくれて理解すると、奥深いところで心が動く。感動したことは心に残る。そうすると人に言いたくなる。そういったことが愛着と誇りにつながると思うと来年度はこの流れで歴史民俗資料館や図書館のことが大きな問題になっているので、これが私たち市民にとってどういう形が一番いいのかを意見を出し合うような形で市に提案をしていけるようなテーマを続けていけるといいと思います。

会長：

ずっと学校にいますので、地域のことを知っているようで知らないことがたくさんあったなと思いました。地域へ出かける学習はどの小中学校でもカリキュラムに入れています。子どもたちが知ったことは、小さいうちに知れば知るほどその記憶はずっと残っています。そして一度は湖南省を出てもいつか湖南省に帰ってきたときにこれが湖南省のいいところだな、故郷に帰ってきたなと実感を持てるものがあるといいな、ものではなく人であればあたたかな地域づくりができていくのかなと思います。

事務局：

生涯学習審議会は、市の諮問を受けて答申をする審議会ではないかということでした。国の中央教育審議会であれば事項に対して国が諮問し答申するというような会議でござ

います。ただ、湖南省の生涯学習審議会については、湖南省の施策に対して審議して必要に応じて調査していただく会でございます。その中で何年かかけて諮問しますので答申をお願いしますというような案件がございましたら審議していただくというような審議会でございます。今のところは諮問をさせていただく案件はないということが現状でございます。

委員：

審議会ですが協議会とほぼイコールとっていただければよろしいですか。

事務局：

協議会でも市から審議していただきたい事項を出して諮問していただく場合もございます。内容的にはそう変わりはないとっていただいても大丈夫です。

委員：

生涯学習審議会にされたのは、協議会と違いはないのか教えていただけたらと思います。

事務局：

名称が変わりましたが、委員さんについては社会教育委員を兼ねていただいているところです。協議会と審議会は、それほど差異はないとっていただいても大丈夫です。市長や教育委員から諮問があったときは審議会として審議をしていただく、諮問がないときは協議会として協議していただくということになります。

会長：

諮問があったときには審議会として答申を出す、ない間は協議会として我々独自のテーマについて協議をしていくということで整理しておいて大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

5. その他

会長：

では、次第の5番のその他ですけれども、皆さんから何かございますか。

委員：

平成29年ごろ社会教育の施設を見直すということで議論をしながら文書を出したことがあります。そのときに図書館は図書館協議会があるのでということで図書館について

はそちらにお任せするという事で何も話さずに終わっています。図書館協議会にお尋ねしたところ、2館を1館にする問題については話し合っていない。議事録を見てもそれらしい様子がない。市の方針として2館が1館になるという方針はわかるのですが、どこでも協議されていないことが気になります。そのことについて、みなさんどうお考えでしょうか。

事務局：

図書館協議会は、図書館の運営について協議していただく場になります。図書館も公共施設の位置づけになります。湖南市の公共施設マネジメントの中で、財政的に2館を維持することが難しいので統廃合していくという大きな方針があります。個別の施設計画に基づきすすめています。協議ということであれば、2館を1館になった後に運営について図書館協議会でされると思いますが、2館を1館にということ自体の協議の場はありません。図書館協議会はそのような役割もないので、今までから協議されてこなかったと解釈しております。

委員：

図書館協議会は運営までタッチしないから、この話題をあげてこなかったということでしょうか。

事務局：

いいえ。図書館協議会は図書館運営に関してや図書館のサービスについて議論する場であって、施設の統廃合については公共施設管理計画の中で決定していくものです。図書館協議会でそれが議論されていく場ではないということでご理解いただきたいと思います。

委員：

施設だから図書館協議会では話さないということですね。図書館利用者からすると、おおざっぱに言ってスペースが半分になってしまうので、社会教育の中で影響を受ける社会教育の問題でないかと思ったので質問させていただきました。

副会長：

社会教育施設ということであれば、この会議でもう少し話してもいいテーマなのかなと思っています。2館にするか1館にするかという極端な話を協議するというわけではなく、2つある図書館を1館にするということが社会教育の中でどういうことになるかということをそれぞれの立場でこの会議の中で意見を聞かせていただくということは意味があるかと思っています。

会長：

来年度からのテーマの一つとして協議いただけるかどうか申し送りにしておきたいと思います。

6. 閉会

会長：

では、最後に副会長の方から一言お願いします。

副会長：

皆様、2年間本当にありがとうございました。

7月に甲西中学校区のコミュニティスクールの会議に初めて参加させていただきました。社会教育委員がコミュニティスクール会議に委員として参加している市町はたくさんありますが、強制になってもおかしい話だから、とりあえず1回見させてくださいとお願いして行きました。すると、委員さんたちがみんな楽しそうにとってもいきいきされている。先ほど委員おっしゃったように、面白いことしようとされていました。傍聴だったので私はしゃべってはいけないのですが、一緒になって入って何かしたくなるぐらい、大人の方がワクワクしている感じを大変久しぶりに受けました。だから、こういうことなのだな、大人の方がいろいろなことを何かしようというときに、地域の役員さんもそうですし、いろいろな組織があると思いますが、その中でわくわく心動かしながら、面白いことしよう、子どもに幸せになるようなことしようって思えるって、本当にすてきだなと思いました。

皆さんもそれぞれの場所に帰られて、それぞれのところで、またそうやってワクワクしながら、社会教育のことをとるとかたいですが、何かできること、こうなったらいいなということを見つけていただいて、またご活躍していただけたらと思います。本当に長い間ありがとうございました。

会長：

副会長、本当にありがとうございました。

それでは、以上もちまして令和5年度湖南省生涯学習審議会第3回会議を閉会します。委員の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

【閉会 20：45】